

加賀東芝エレクトロニクス株式会社 サイトレポート情報

所在地 : 石川県能美市岩内町1番地1

敷地面積 : 330,000m²、建家面積 : 54,891m²、緑化率26.6%

設立 : 1984年12月、正規従業員 : 832人 (2009年3月現在)

主要製品 : 小信号トランジスタ、パワートランジスタ、チップ

ISO14001認証取得 : 1996年2月、最新更新(統合)年月 : 2008年8月

ISO14001認証番号 : EC98J2014



サイトの紹介

加賀東芝エレクトロニクスは、東芝グループの半導体製造拠点として昭和59年(1984)に設立、製品の開発設計、チップから組立まで一貫生産をする最新鋭工場です。人間の叡智、先端技術を結集し、徹底した品質管理(ISO-9001)の下での安定した生産体制を誇ります。また、霊峰白山麓、辰口丘陵の自然から生命力を吸収し、美しい地球環境保全の取り組み(ISO-14001)を全社挙げて実行し、広く世界に、また次の世代へ感謝の心を守り伝えていきます。



代表取締役社長 谷全 祥市

2008年度の環境の主な取り組み

☆地球温暖化の防止 : CO₂排出量削減⇒目標:1104t-CO₂削減・実績:1,641.8t-CO₂削減

:温暖化物質(ガス)排出量削減⇒目標:排出量20GWP千t以下・実績:14.6 GWP千t

☆資源の有効利用の推進:廃棄物総排出量の削減(有価物含)⇒目標:排出量2,421t以下・実績1,914t

:水資源受入量の削減(工水・市水)⇒目標:受入量2,585千m³以下・実績2,165 m³

☆環境リスクの低減 : 化学物質排出量削減⇒目標:排出量120t以下・実績86.3t

☆地域コミュニケーションの推進 : “石川の森づくり”(緑化ボランティア-27名)参加

: 環境報告書の発行、環境ニュース等。

☆環境意識の向上地域との協調 : 環境教育eラーニング化(6月実施)

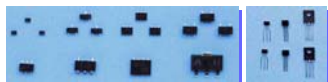
: 清掃ボランティア活動(クリーン作戦-199名)参加。

: 三大環境月間(環境月間・3R月間・省エネ月間)の推進

製品、環境技術開発紹介

マルチメディア時代を支えるキーコンポーネントとして不可欠の個別半導体

当社が製造する個別半導体(ディスクリット)はマルチメディア時代に欠くことが出来ないキーデバイスであり、パーソナルコンピュータや携帯電話など、IT産業分野を中心に、デジタルステールカメラや家庭用ゲーム機など、様々な電子機器で活用されています。



スクラパー排気Fan動力低減

概要
スクラパー多乳扇及び低ストキャッチャーは排気等により異物が電機シガスの排気口へ吸込まれる。これを定期的に清掃することにより排気口の汚れを良好にし排気能力を向上し排気Fanの動力を低減する。

効果試算
ポンプ電力量: Δ 13MWh/月
効果額: Δ 118kV / 月
CO2削減量: Δ 5.11-CO2/月 (1基)

改善内容
スクラパー-扇形
低ストキャッチャー
SC排気電力: 37kW / SC204
電力周波数
清掃前 → 清掃後
55Hz → 40Hz
電力低減率: 62%

省エネ事例

室温低減による空調動力削減

概要
CR室圧がWGR+2でより適正化し、過剰な室温を低減することにより空調動力の削減を図る。

効果試算
電気使用量削減: Δ 201.5MWh/年
電気使用量削減: Δ 2.5kL/年
CO2削減量: Δ 82.4t-CO2/年
省エネ額: 1997.1kV/年

改善内容
CR室圧を低減により外気温が削減され、外気温処理コスト(冷水・温水)の削減が可能

環境コミュニケーションの紹介

地域コミュニケーションの充実

《加賀》環境報告書の発行



「クリーン作戦」への参加

当社周辺の通勤路や市内などの清掃活動「クリーン作戦」を、毎年、当社従業員やその家族らで、実施しています。2008年度は199名が参加しました。



「石川の森づくり」への参加

◆「石川の森づくり」は県内の企業や一般市民が参加して、木を一本ずつ植え、育てることにより、将来の環境に貢献する活動です。加賀東芝も社団法人石川の森づくり推進協会の実行委員として、積極的に関与し、下草刈り活動に参加。



加賀東芝エレクトロニクス株式会社 環境方針

－ 理念 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は東芝グループの理念である「“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

－ 方針 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、東芝セミコンダクター社グループ環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけます。モノづくりにおいては、半導体製品の設計・製造における環境負荷の低減を経営と調和させながら積極的に行います。そして、製造、サービス、廃棄などの事業活動においても、環境に配慮した企業活動を実践し、環境調和製品の創出を継続することが‘青い日本海・清い手取川・豊かな石川の森・澄んだ空気’を未来に残せる唯一の手段であることを認識し、全従業員一丸となって取組みます。

1.倫理観（コンプライアンス）と継続性（サステナビリティ）

- 1) 法令、当社組織が同意した業界などの指針および自主基準など当社組織の環境側面に適用可能な法的及びその他要求事項を遵守します。
- 2) 環境活動レベルの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

2.実行（エクゼキューション）

企業活動の実行においては、開発、調達、生産、回収の全ての事業プロセスにおける環境側面について、環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止、環境配慮型製品の創出などに関する環境目的および目標を設定して、積極的な環境施策を展開します。

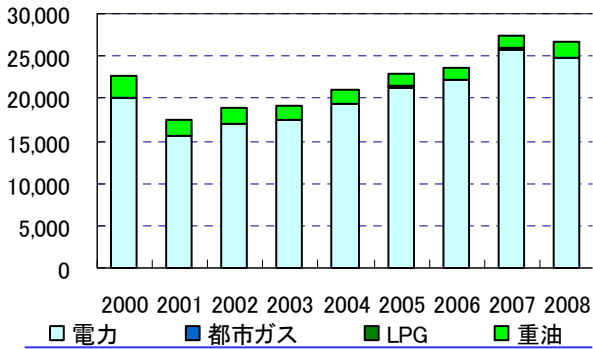
- 1) コンプライアンスの徹底・浸透を図るため、環境マネジメントシステムを統合化し、環境経営の一元化に取組みます。
- 2) 製品の省エネルギー・省資源設計と製品含有化学物質管理を行い、環境配慮型製品の創出・社会への提供を通じ、社会の環境負荷低減に取組みます。
- 3) 生産性の向上、動力及び製造設備を中心とした省エネルギー、温暖化ガス排出削減施策（除害装置の導入拡大）の実施、物流の効率向上により地球温暖化防止を推進します。
- 4) 循環型社会構築のために、生産性の向上、技術の開発及び指針の策定と共に、3Rの取組みを積極的進め、廃棄物の総排出量の削減、水資源の受入れ量削減施策の実施により資源の有効活用を推進します。
- 5) 使用する化学物質の管理ならびに特定した化学物質の削減に係る技術の開発及び指針の策定と共に、環境排出量の削減施策（新クリーンルーム除害装置導入）の実施により、環境リスクの低減を実現します。
- 6) 地域・社会との協調連帯により、ステークホルダーとの相互理解の促進に取組みます。
- 7) 組織の従業員の環境意識を高め、環境に配慮した企業活動を当社敷地内の構内常駐会社およびその従業員含む全部門・全従業員で実行します。

<この環境方針は、当社敷地内の構内常駐会社及びその従業員を含む全部門・全従業員、取引先等に周知するとともに、一般の人にも開示します。

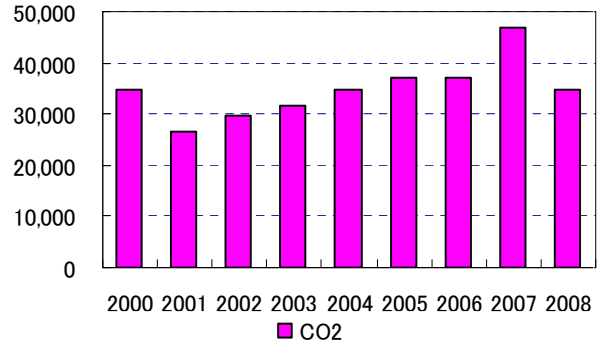
2009年 4月 1日
加賀東芝エレクトロニクス株式会社
取締役社長 谷全祥市

環境負荷データ

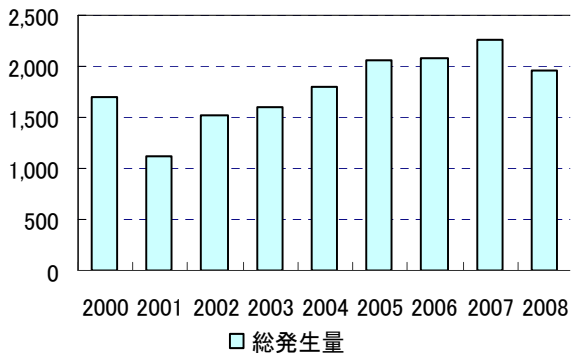
エネルギー使用量 (単位:kL)



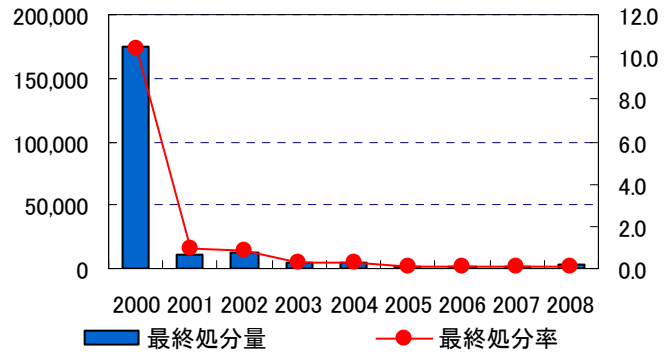
CO₂排出量 (単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量 (単位:トン)

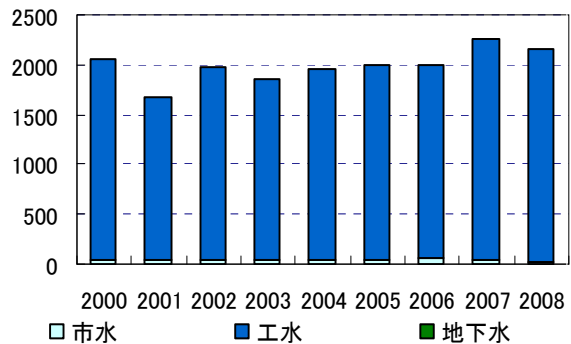


廃棄物最終処分量と最終処分率 (単位:kg, %)

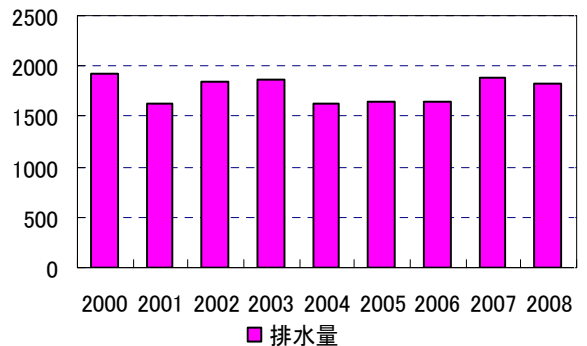


主な廃棄物名: 汚泥、廃油、プラスチック、ガラス・陶磁器等

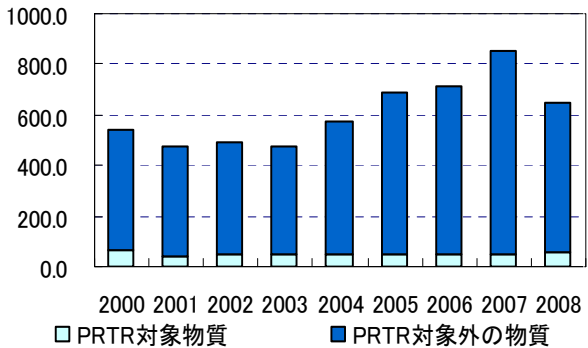
水の使用量 (単位:千m³)



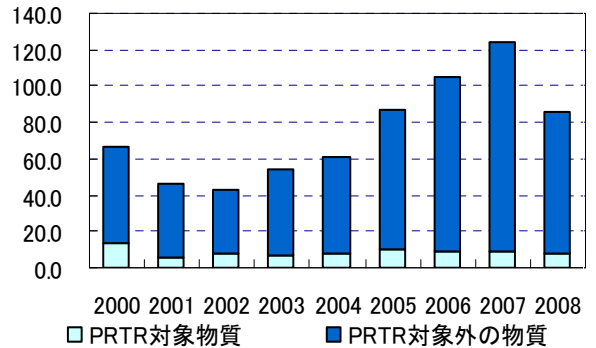
排水量 (単位:千m³)



第4次ボランタリープラン削減対象の取扱量の推移 (トン)



第4次ボランタリープラン削減対象の排出量の推移 (トン)



主な化学物質: 硫酸、NMP、IPA、PEGME 等

遵法管理状況

大気測定結果(炉筒煙管式ボイラー(A重油使用)2台)

	法規制値(協定値)	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	180 (180)	150	47~71	年2回
SOx(Nm3/h)	17.48(8.75)	0.88	0.058~0.090	年2回
ばいじん(mg/Nm3)	300 (300)	30	4~16	年2回

排水測定結果(主な測定結果)(酸又はアルカリ表面処理施設、排水処理施設等、河川(専用暗渠~手取川)へ放流)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(協定値)	6.6~7.5	6.8~7.3	月1回
BOD(mg/ℓ)	30(協定値)	8	<2	月1回
COD(mg/ℓ)	160(水濁法)	16	2	月1回
SS(mg/ℓ)	90(協定値)	12	2~4	月1回
鉛(mg/ℓ)	0.1(協定値)	0.01	<0.005	月1回
フッ素(mg/ℓ)	8(協定値)	4	0.8~2.6	月1回

騒音・振動測定結果(騒音 モールドプレス(機械プレス)、局所排気ファン(送風機)他、振動 コンプレッサー(圧縮機))

	測定場所・時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	指定地域外	70	39~48	年1回
	敷地境界:夜	指定地域外	60	—	任意
振動(dB)	敷地境界:昼	指定地域外	65	<30	年1回
	敷地境界:夜	指定地域外	60	—	任意

その他測定結果(浄化槽法:主な測定結果(浄化槽B))

	放流水質基準	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(望ましい範囲)	5.8~8.6	6.6~6.9	年4回
BOD(mg/ℓ)	20(除く/既設浄化槽)	20	1.5~5.2	年4回
SS(mg/ℓ)	—	90	0.3~2.0	年4回

環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし